

# 専念寺通信

10月号 (NO.158) <http://sennenji.s296.xrea.com/>

10月に入り、朝晩しのぎやすい季節が始まりました。皆さまお変わりなくお過ごしですか。

## ☆秋のお彼岸報告

今年のお彼岸は幸い天候にも恵まれ、お中日を中心に多くの檀家さまがお墓参りにみえました。20日の入りの日から、26日の明けの日まで、大玄関の芳名帖に記帳してくださった方は、214名にのぼりました。ご夫婦、ご家族連れで墓参される方が多いことを考えると、総勢500名ほどの方とお目にかかれたかと思えます。

以前勤めていた勤務先の上司宛に、退職後も必ずお塔婆をたて、墓参りされる方。11人家族全員で待ち合わせをし、ご兄弟のお墓にも花を供える方。だんだん目がみえにくくなり、外出が難しいけれど「慣れている場所は勘で歩けます」とおっしゃり、杖もなしに一人で来寺される方。お母さんに抱っこされていた赤ちゃんが墓地の入り口で泣き出し、入り口からのお墓参りとなった方もいらっしゃいました。



この秋の彼岸のあいだ、お墓参りをすることで、亡くなられた方を偲ぶことができ、また久しぶりの一家団欒になる皆さまもいらして、私共も、穏やかで良い1週間を過ごさせて頂きました。彼岸花はお中日に桜の樹のまわりで一輪、また一輪と開きました。

## ☆南無阿弥陀仏の意味

檀家様にご質問いただきましたので、以前も通信に掲載したことがございますが、もう一度掲載させていただきます。

ご法要の最後に、参列者全員で唱える「同唄十念」

は「南無阿弥陀仏」と10回唱えるものです。「阿弥陀仏」の語源はサンスクリット語のアミターユス、アミターバであり、「無限の光と無限の生命を持った存在」という意味です。南無はゆだねる、帰依する、という意味ですから、南無阿弥陀仏は、「私は無限の光と生命に自身をゆだねます」という意味になります。

## ☆オリンピックと原発

東京オリンピックの開催が2020年に決まりました。決定の瞬間を生放送で見た人も多いようです。誘致のための印象的な演説、「トウキョウ」と呼ばれた瞬間の選手たちの喜びなど、近来にない明るいニュースとして記憶されました。

一方で大震災の後の原子力発電所の有害な水の処理は進んでいません。故郷を去らねばならなかった人達のその後もあまり報道されません。原発事故の影響は、私たち人間にとってほとんど未知のものです。前例は少なく、その後の処理も国によって異なります。日本の処理の仕方は、果たしてこれで良いのでしょうか。明るいニュースは明るいままに、けれど忘れてならないことは心にしっかりと置きましょう。

平成25年10月1日 大黒

